シリーズ 歯科治療最前線

「歯髄炎の治療と予防法」

歯の構成の中でとても重要な位置を占める「歯髄（しずい）」。この「歯髄」に炎症が起こることを「歯髄炎」といいます。今月号では「歯髄炎」の概要から原因などを掲載するとともに、後半では症状や治療・予防方法などを添島歯科医院（熊本市中央区桜町）の添島英輔副院長に、インタビューしました。

「歯の心臓」ともいえる「歯髄」

歯は一番外側に硬いエナメル質、その内側に象牙質、そして歯根の表面にセメント質があり、中心部に歯髄と呼ばれる軟らかい組織で形成されています。歯髄は神経、血管、リンパ管、線維などの組織で成り立っています。硬いエナメル質と象牙質で守られている歯髄は、歯の象牙質に栄養を送り込み再生を促す大きな役割も担うなど、極端に言えば「歯の心臓」といってもいいくらい重要な部分です。この歯髄に何らかの原因で炎症が起こり、痛みが出ることを「歯髄炎」といいます。

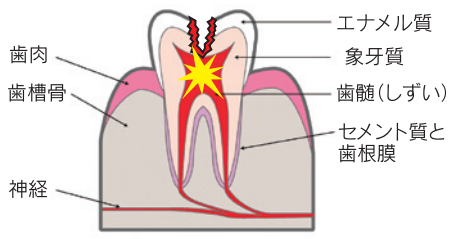
歯髄炎の原因として挙げられるもので一番多いのが細菌因子です。虫歯が象牙質の深いところまで進行すると、虫歯菌が歯髄まで到達し炎症を起こします。ほかには歯の外傷、歯ぎしりなどによる咬耗（こうもう）や磨耗、亀裂、歯を削った刺激などによる機械的因子が歯髄炎の原因となります。

「歯髄の死」＝「死んだ歯」に

よく歯の治療で「神経を取る」という言葉が聞かれますが、これは歯髄を取り除くという意味です。歯髄がなくなった歯は当然「死んだ歯」の状態になり、割れたりしやすい状態になってしまいます。そうならないためにも歯髄はできるだけ残しておく、もしくは炎症を起こさないように予防することが大事です。

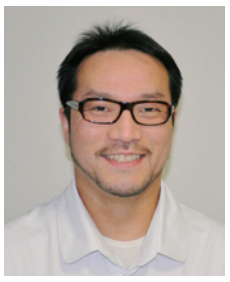
熊本市内の40歳代の男性は「噛むと少し痛みがあったので歯科医院に行ったら軽い歯髄炎といわれ治療しました。虫歯ではなかったのですが、歯に少し亀裂ができていたのが原因といわれました。早めに行ったため歯髄を取らずに済みましたし、亀裂の修復もできました。今は歯髄炎の兆候はないと診断され、本当に良かったと思っています」と話しています。

【歯髄炎の例】



虫歯が象牙質の深いところまで進行すると歯髄に炎症が。

歯科医からのアドバイスQ&A「歯髄炎の治療と予防法」



熊本インプラントセンター
添島歯科医院
添島 英輔 副院長
日本歯周病学会 会員
日本アンチエイジング歯科学会 理事

Q 歯髄炎の主な症状を教えてください？

A 症状としては何もしていなくても歯に痛みがあったり、甘い物、冷たい物、熱い物、酸っぱい物などを食べる時にしみる感じが持続する。噛んだ時に痛みが出たりします。痛みがひどくなるとドクドクとした拍動性の痛みになり、夜も眠れないほどです。症状の進行状態により「歯髄充血」、「急性歯髄炎」、「慢性歯髄炎」、「歯髄壊死」、「歯髄壊疽」などがあります。

Q 具体的な治療方法はどうされるのですか？

A 治療は歯髄を取るか取らないかで大きく変わります。歯のためにもできるだけ歯髄は残した方がいいのですが、先ほどの歯髄充血から急性歯髄炎の中の急性単純性歯髄炎は、歯髄が残せる可能性が高いですね。この場合は歯髄の炎症を鎮める治療をします。逆に急性歯髄炎の中の急性化膿性歯髄炎は、症状が酷く悪化していますので、多くの場合は歯髄を取ってしまう「抜髄（ばつずい）」処置を行います。抜髄処置後は歯髄の中をキレイにする「根管治療（こんかんちりょう）」を施し、歯髄の中に詰め物を入れる「根管充填」を行い治療は終了します。皆さんが神経を取ったといわれることは「抜髄」のことをいいます。

Q 仮に「抜髄」しても虫歯などは進行するのですか？

A 進行します。虫歯は歯髄の有無にかかわらず進行し、最終的には「抜歯」になってしまう可能性もあります。注意すべき点は「抜髄」した歯は、神経がないので痛みが出ないため、虫歯の進行が自分では分かりにくいところです。そのため定期的に虫歯治療を受ける必要が出てきます。

Q 歯髄炎にならないための予防のポイントは？

A まずは虫歯を作らないこと。食事や噛み合わせするときに少しでも痛みが出たら早目に歯科医院で受診されることをお勧めします。

一本一本の前歯、奥歯を問わず歯の中枢となる歯髄。歯髄を守ることが、健康な歯を維持することにつながります。

熊本インプラントセンター
添島歯科医院
熊本市中央区桜町1-28 桜町センタービル205
0120-354-508
http://www.soejima-sika.com/
第一高校● 合同庁舎● 坪井川 添島歯科医院 桜町センタービル2F 市民会館● NTT● ●交通センター

地域医療最前線

胆のう、鼠径（そけい）ヘルニアなど腹腔鏡手術の専門施設

甲状腺がんの診断・治療も

くまもと乳腺・胃腸外科病院（熊本市中央区南熊本4丁目、村本一浩理事長）は、県内でも数少ない腹腔鏡手術の専門施設として、澤田俊彦院長を中心に過去2千例を超える豊富な診療実績をもっています。また、近年増加傾向にある甲状腺がんにおいても、専門医の稲吉厚総院長が病気の早期発見・治療に努めています。

今回は胆のう、鼠径ヘルニアを中心とすると腹腔鏡手術と女性に多い甲状腺疾患について、担当医の澤田院長、稲吉総院長に説明してもらいました。

院　長
澤田 俊彦

総院長
稲吉　厚

▲テレビモニターを観察しながら行われる腹腔鏡手術

早期の胃がん、大腸がんの手術も

腹腔鏡手術の主な症例は、胆のう摘出術、鼠径ヘルニア修復術、虫垂切除術などで、リンパ節転移がない早期の胃がんや、大腸においては進行がんも標準術式として腹腔鏡手術を選択することが多くなってきました。

腹腔鏡下の外科手術は、内視鏡の一種である腹腔鏡と呼ばれる医療器具を用い、全身麻酔下に腹壁に小切開を数ヵ所加え、腹腔鏡で写しだされた映像を観察しながら患部を摘出する手術です。患者さんにとっては従来の開腹手術に比べ、体へのダメージが少なく、回復が早いことから肉体的、精神的な負担が大幅に軽減される利点があります。

痛みも少ない鼠径ヘルニア修復術

特にこの腹腔鏡を用いた手術で最近増加しているのが鼠径ヘルニア修復術です。鼠径ヘルニアは、足の付け根（鼠径部）に起こったヘルニアで、腸の一部が大腿の付け根の筋膜の隙間から皮膚の下に突き出る病気です。加齢による筋膜の弱体化を要因に中高齢の男性に多く発症します。

手術は腹腔内及び腹膜外から患部に到達する2つの方法があり、筋膜の開いた部分をメッシュシート（人工膜）でふさぎます。出血や術後の痛みも少なく、入院も2～3泊程度で済みます。自覚症状がある方は、早めの受診をお勧めします。

増加傾向にある甲状腺がん

また、近年増加傾向にあるのが甲状腺がんです。特に女性に多く、男性の3倍以上発見されています。

当院では、今年に入り8例の甲状腺切除手術を実施しています。甲状腺がんには乳頭がん、濾胞がん、未分化がんなどがあり、その多くは血行性転移が少なく予後良好な乳頭がんです。しかし、未分化がんは骨や肺に転移しやすく、死亡率が高いがんです。

検査は超音波診断装置でのどのしこりの状態を診断し、最終的には細い針で患部の細胞を吸い取り、がんの種類まで調べる細胞診で判断します。甲状線はのどにあるので人目につきやすい部位の手術になり、特に女性にとっては術後の傷跡が心配でしょう。しかし、形成術が発達し、傷跡はほとんど見えなくなります。

温かく思いやりのある医療を

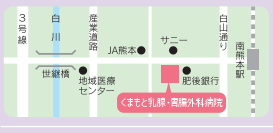
当院1階の受付には専任のコンシェルジュを配置し、患者さんや付き添いの皆様をご案内しています。また、院内にはカフェテリアやラウンジ、3階の屋上部分には庭園とガーデンラウンジを設け、患者さんが少しでもリラックスして療養していただけるよう工夫しています。これからも心を癒す空間で、温かく思いやりのある医療を実践し、全スタッフがひとつになって患者さんやご家族を支えて参ります。

▲3階屋上の庭園とガーデンラウンジ

くまもと乳腺・胃腸外科病院

甲状腺は新陳代謝に関わるホルモンを分泌する大切な内分泌腺です。のどがおかしいと思うと、つい耳鼻咽喉科や内科のドアをたたいてしまいがちですが、甲状腺がんを疑い、専門医の診察を受けることが大切です。

★診療科目
外　科（乳腺・胃腸・胆のう・内視鏡）
内　科（乳腺・がん化学療法・疼痛緩和）
麻酔科（ペインクリニック 医師 柳澤克嘉）
★入院施設
41床（内、開放型病床5床）

医療法人社団 世安会
くまもと乳腺・胃腸外科病院
Chemotopia ケモトピア　Kumamoto Breast & Gastrointestinal Surgical Hospital
くまもと乳腺・胃腸外科病院　検索


診療時間と休診日
月～金曜／9:00～12:30 14:00～17:30
土　　曜／9:00～12:30
休　　診／日曜・祝日・第3土曜日
※木曜日は19:00まで診療（受付18:30まで）
※熊本市の乳がん検診（要予約）は、水・木曜の午後に診療
※第2日曜日の午前は、熊本市の乳がん検診（要予約）のみ診療
〒860-0812 熊本市中央区南熊本4丁目3-5　TEL.096-366-1155　FAX.096-366-5585